

○ 住民説明会における意見等（全体説明会）

1. 日 時 令和元年8月3日（土）9時00分から11時30分まで
2. 場 所 木更津市民会館中ホール
3. 出席者 防衛省整備計画局、北関東防衛局ほか
木更津市企画部
千葉県総合企画部
4. 参加者 262名
5. 防衛省から説明資料に沿って説明後、以下のとおり質疑応答。

※【○主な質問等】【●防衛省の説明】

1. 木更津駐屯地への暫定配備期間について

- 佐賀県と有明海漁協とが現在調整中であるとのことだが、どれだけの問題を抱え、その問題を解決するために、どれだけの期間をかけて調整をしているのか。暫定配備期間の目途の説明もない中、容認はできかねる。結果として、有明海漁協の理解が得られず、木更津駐屯地が陸自オスプレイを恒久的に引き受けざるを得なくなる状況は非常に困る。基本的に暫定配備には反対の立場であるが、木更津市が受け入れ困難と判断した場合は、木更津駐屯地への暫定配備は行わないでいただきたい。
- 現在、佐賀県と有明海漁協において、佐賀空港建設時に締結された公害防止協定で確認されている、『県は佐賀空港を自衛隊と共用するような考えをもっていない』旨の考え方の取扱いについて協議がなされているところであり、本年5月には佐賀県知事が有明海漁協に対して、直接の説明を行ったところ。防衛省としてもオスプレイの必要性を有明海漁協に説明をし、理解を求めていく。その上で、施設整備に必要な調査等を実施できれば、その段階で施設整備の期間の目途が立つが、防衛省としては、できるだけ工期を短縮すべく、最大限の努力を行う。

2. 木更津駐屯地への暫定配備の必要性について

- 配備先を決定する前に、オスプレイの導入を決定するべきではなかったのではないか。その結果、いまだに配備先が整わないことを理由に、暫定配備を要請する羽目になっており、理解に苦しむ。
- 御指摘は受け止める。一方、目まぐるしく変化する安全保障環境に対応するため、オスプレイの導入を判断したものであり、その上で、佐賀空港に配備すべく調整中ではあるが、その調整に時間を要していることから、木更津駐屯地に暫定配備をさせていただきたく、説明をさせていただいている。
- 住民感情としては、受け入れがたい。聞いた話だが、日本の軍事力は世界第7位であり、核保有国を除けば、世界第1位であるとのこと。そのような

中、オスプレイやF-35戦闘機を取得する必要があるのか。その予算は税金である。住民の声を聞くような説明会を、木更津市全域で行う必要がある。

- 我が国の防衛力については、防衛関係費といった予算の多寡、または、核保有の有無等、さまざまな尺度で測るものであることから、一概には申し上げられない。陸自オスプレイは、現時点において、我が国防衛上、空白地帯となっている、広大な地域である南西諸島地域の防衛のために必要である。尖閣諸島を巡る問題や、西太平洋における周辺国の軍事活動の活発化といったものに対応する必要がある、有事の際にあっては、迅速に部隊を展開する必要があることから、オスプレイの導入を決定した。

○ 暫定配備先を検討するに当たり、陸上自衛隊のみならず、九州の航空自衛隊の基地は検討したのか。

- 陸海空の3自衛隊の全ての航空基地を対象に検討をしたが、オスプレイを運用するに当たっての要件（説明資料7頁）を全て満たす自衛隊基地として、九州の基地は見出せなかったところである。

○ アメリカと日本のほか、オスプレイを導入している国はあるのか。

- オスプレイを導入しているのはアメリカと日本のみであると承知しているが、装備品の必要性については、その国々がそれぞれ置かれている安全保障環境によって異なる。我が国がオスプレイの導入を決定したのは、島嶼防衛を極めて重視していく必要性が生じたためである。

○ なぜ多額の予算をかけて装備品を購入するのか、といった主旨の質問があったが、最新式の装備品を導入することが、防衛力強化に繋がるのは当然のことで、オスプレイの暫定配備には賛成の立場である。新宿区で実施された説明会においても、ほとんどの地元住民が賛成の立場であったと認識している。

○ なぜ政府は、外交努力をしないのか。仮に、中国や北朝鮮が脅威であるというのであれば、政府はロシアをどのように評価しているのか。ロシアや中国から装備品を購入すれば、攻めてくる心配はなくなる。アメリカから装備品を購入するからこそ、中国やロシアから敵対国と見なされるのである。（木更津市外の住民）

- 北朝鮮とは国交を樹立していないが、中国とは外交当局が関係改善に向けて、対話を継続しているところと承知している。また、その他、防衛当局間においては、防衛交流を実施する等、信頼関係を構築している。しかし、外交をするに当たっては、安定的な防衛力の保持、つまりは抑止力の保持が重要な要件となると考えている。

○ 国防のため、陸自オスプレイを木更津駐屯地に暫定配備することは賛成で

ある。第一空挺団の任務を考慮すれば、第一空挺団との連携も重要であると考え。報道等では反対派の意見のみが取り上げられており、いかにも反対者が多い印象を与えているが、実際、木更津市民の半分以上は、オスプレイのことをよく理解していない。木更津駐屯地で実施している航空祭で、米軍のオスプレイの地上展示等を行っていただければ、市民の理解は比較的容易に得られるものと考え。

- 第一空挺団は千葉県の災害を担当する部隊であることから、オスプレイを活用し、第一空挺団を災害派遣活動に従事させることは想定している。今まで、時間的な問題や距離的な問題から不可能であった任務がオスプレイを使用することで可能になる、これは非常に有意義である。地上展示等については、今後検討させていただく。

3. 木更津駐屯地を選定した理由について

- 本年6月10日に行われた防衛省による市議会への説明時、他の基地との比較検討内容を問われた防衛省は、基地が所在する地元の皆様に様々な影響を及ぼす懸念があることから、お答えは差し控える旨、答弁をしていたが、木更津市民に対して、非常に失礼な話である。木更津駐屯地は、米海兵隊MV-22オスプレイの定期機体整備拠点であり、更に暫定配備となった場合、木更津市は差し障りがないのか。丁寧な説明に努めるのであれば、検討内容を公表し、木更津市民が検証できる環境を作ることが必要である。
- 繰り返しになるが、基地が所在する地元の皆様に様々な影響を及ぼす懸念もあり、他の基地との比較検討内容のお答えは差し控える。一方、省内で検討した結果、木更津駐屯地が暫定配備先として最適であると判断し、先般、防衛副大臣が木更津市を訪問し、木更津市長及び木更津市議会議長に協力要請を行った上で、現在、住民説明会の場を設けさせていただいている。
- 木更津市民としては、防衛省の一方的な判断だけではなく、オスプレイの暫定配備先としては、木更津駐屯地において他にはないことを、木更津市民が判断できる材料が公表されることが必要であると認識している。

4. オスプレイの安全性や必要性について

- なぜ、オスプレイが必要なのか、その説明が不十分である。中国の軍事活動の問題や、北朝鮮が攻めてくる可能性があるのか等、詳細に説明していただきたい。周辺諸国が軍備強化をしたから、我が国も軍備強化をする、といった軍拡競争で果たして日本国民の生命を守ることができるのか。事が起こらないよう、外交努力をすべきではないか。
- 中国を例にしていたが、中国はもとより友好条約に基づく友好国である。一方、中国の国防費はこの20年で30倍の増加傾向を見せており、日本の防衛関係費とは比べものにならないくらい増加している。中国は西太平洋や

南シナ海での活動を拡大しており、尖閣諸島問題も発生している。我が国は平和国家であり、専守防衛を旨としているが、有事の際に国民の生命、財産を守るため、現在、空白地帯となっている南西諸島を迅速に防衛する、そのためにオスプレイが必要であると判断した。また、島嶼防衛のみならず、災害発生時においても、オスプレイを有効に活用することができる。

- オスプレイは航空法上の耐空証明は得る必要がないと聞いたことがあるが、陸上自衛隊がそのような装備品を取得するのはいかなものか。
- 自衛隊機については、自衛隊法第107条の規定により、耐空証明の取得を定めた航空法の規定は適用されないこととされている。一方で、同条において、別途、防衛大臣が国土交通大臣と協議の上で、航空機の安全性及び運航に関する基準を定め、必要な措置を講ずることとされている。具体的には、航空機の安全性の確保に関する訓令において、航空機の飛行、構造、装備、エンジン等について、必要な技術上の基準を定め、自衛隊機はこの基準に適合していなければ航空の用に供してはならないこととしている。陸自オスプレイについても、他の自衛隊機同様、航空機の安全性を確保するために必要な技術上の基準に適合していることを確認することは当然。
- 沖縄を訪問した際に、保育士から聞いた話であるが、小さな子供たちが騒音により眠ることができず、今でも睡眠障害に冒されているとのこと。インターネット上では、オスプレイはアメリカの失敗作品であるとのこと。アメリカ51州のうち、オスプレイが配備されているのは何州で、機体単価はどの程度なのか。
- 機体単価について、予算ベースでは、平成27年度は約103億円、平成28年度は約112億円、平成29年度及び平成30年度は約98億円である。米海兵隊MV-22オスプレイのアメリカでの配備先であるが、2012年3月時点において防衛省が把握している限りでは、カリフォルニア州、ノースカロライナ州及びハワイ州の3州である。
- 改憲し、自衛隊を戦争に使うため、アメリカの押し売りを首相が買ったものと思えない。説明会で出た意見を首相に伝えていただきたい。
- 御意見として受け止める。
- 防衛省からの説明によると、今まで発生したオスプレイの事故はいずれも外的要因であると感じた。オスプレイの機体の安全性について、防衛省が独自に確認したとのことであるが、どのような方法をもって安全性を確認したのか。また、安全性を確認するに当たっては、防衛省の中だけで確認を行ったのか。
- 普天間飛行場に米海兵隊MV-22オスプレイを配備するに先立ち、分析

評価チームを設置し、アメリカ本土に派遣して安全性を確認した。具体的には、平成24年に発生したオスプレイの事故の調査報告書について、アメリカ側の説明受け、シミュレータの視察及び実機搭乗等を実施した。その上で、報告書の内容を確認し、日本で実施している事故の分析評価の手續に準じて、環境上の要因、人的要因、機体の要因等の様々な要因を自衛隊の安全管理上の規則に照らし、分析し、安全性を確認した。分析評価チームの構成員には、部外有識者も含まれており、専門的アドバイスも得て、検討を行ったもの。

- 機体の安全性が担保されていないオスプレイについて、防衛省の説明を聞く限り、危険性の拡散や日本への持ち込みを急いでいるように感じる。アメリカで機体を保管してはどうか。
- オスプレイは、平成17年にアメリカ政府が安全性を確認した上で量産をしたもので、日本国政府としても独自に安全性を確認している。更に、防衛省としては、平成28年から米海兵隊の教育課程に陸自オスプレイのパイロットや整備要員を派遣し、改めて、機体の安全性を確認している。それに加え、オスプレイの運航、飛行の安全性を確保するため、要員の育成、教育訓練に万全を期す観点から、アメリカにおいて陸自オスプレイの機体を用いて教育訓練を実施している。日本において、運用基盤を確立し、島嶼防衛に資するため、日本に早期に配備し、抑止力を高めたい。
- 2016年の熊本地震の際、米軍オスプレイが南阿蘇村へ生活物資等の輸送を実施したとのことだが、聞いた話によると、オスプレイは回転翼モードで着陸する際、瞬間的に600度以上の熱風噴出することから、ヘリパッド以外に着陸するに当たっては、植物等に引火し、機体にも引火することを防ぐため、相当量の水を撒いたとのこと。被災地では水不足だったことから、それだけの水があれば被災地に回すことができたのではないか。
- 熱風が真下に吹き下ろすため、火災や耐熱の準備をする必要があるとの指摘だが、真下に熱風を全て吹き付けるのではなく、熱が分散することとなることから、全てが真下に行って火災が起こるというものではない。補足ではあるが、ヘリコプターが離着陸を行う際、ローターによる風圧で砂の飛散や、物が飛散して周囲に被害を与えることを防止するため、散水を行うことは一般的である。
- 発災時、水は非常に貴重であり、オスプレイがあれば助かる、という論理はおかしい。
- 他のヘリコプターも同様だと思うが、特にオスプレイはローターの重石として劣化ウランを使用していると聞いたことがある。周辺市町村の水源は小櫃川のみであり、万が一オスプレイが小櫃川に墜落したら、水源が放射能に

汚染されてしまう。また、劣化ウランの飛散も懸念される。トリチウムも通常の２０倍から３００倍のものが使用されているとの話も聞いたことがあるが、事実か。（木更津市外の住民）

- 一般に、航空機のエンジン点火装置等に放射性物質は広く使用されているところ、陸自オスプレイにおいても他の航空機と同様にクリプトンという物質が使用されている。他方、ストロンチウムやトリチウム、劣化ウランは使用されていない。
- 意見として述べるが、陸自オスプレイを木更津駐屯地に暫定配備することには反対である。昨年８月１５日の琉球新報によると、２０１２年に米軍普天間飛行場に配備されたオスプレイは沖縄県内外で度々緊急着陸や墜落事故を起こし、事故率が倍増したとのことである。２０１７年８月には、オーストラリア東部海上で墜落し、３名が死亡した。仮に住宅地での墜落となれば、死傷者が増え、幸せな家庭生活と人生をぶち壊すことになる。このような輸送機が配備されたら、毎日不安を感じながらの生活となる。ぜひ、木更津市は慎重な判断を下してほしい。今後は説明会ではなく、討論会として、市民の考えを感じていただきたい。（木更津市外の住民）
- オスプレイの安全性に係る補足説明資料には、沖縄の不時着水事故はパイロットのミスであり、オーストラリアの着艦中の事故では、パイロットの任務上の問題はないとのことであるが、他方、説明資料によると、『高度にシステム化されて、人的ミスが起きる可能性を局限している機体整備』とされている。これは齟齬があるのではないか。また、飛行中に機体に不具合が発生した場合、危険な状態の機体が木更津駐屯地に帰投しようとする。また、演習場等で機体に不具合が発生した場合、どのような手段によって予防着陸を実施するのか。
- オスプレイが木更津駐屯地に暫定配備された場合、木更津駐屯地を中心とし、それぞれ演習場等へ飛来し、訓練を行うこととなるが、飛行中に万が一、機体に不具合が発生した場合、それは操縦士と搭乗員の判断にもよるが、予防着陸を行うことが考えられる。予防着陸の場所の多くは、河川敷や広いグラウンド、また、例えば場外離着陸場等が想定される。いずれにしても、万が一にも事故が発生しないよう、安全に万全を期して飛行するため、御理解を願う。

5. 生活環境への影響について

【騒音・振動】

- 江川総合運動場を訪問した際、ＣＨ－４７がホバリング訓練をしており、腹に響くような騒音であった。米海兵隊ＭＶ－２２オスプレイが定期機体整備のために木更津駐屯地に飛来した際、ＣＨ－４７とは騒音の質が違い、かなりの重低音であったと感じた。ただでさえ、ＣＨ－４７の騒音で悩まされ

ているのにもかかわらず、定期機体整備の米海兵隊オスプレイ、さらに暫定配備の陸自オスプレイが加わるとなると、騒音レベルが上がるのではないかと。有事の際、タッチアンドゴーが木更津駐屯地で実施された場合、基地周辺では騒音被害が相当酷くなることが予想されることから、暫定配備には反対である。横田飛行場での騒音訴訟では飛行差し止めにならなかったことから、受け入れてしまってからでは遅い。

- 仮に陸自オスプレイを暫定配備させていただいた後、騒音が酷くなることがあれば、木更津市とも相談の上、現地で調査を実施し、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律に基づく対応を検討する。

- 73年間、木更津駐屯地周辺の新宿地区に住んでいるが、木更津駐屯地がうるさいと感じたことは一度もない。今まで騒音が酷かったものは、F-86が飛行していた時であったと認識しているが、今のヘリコプターは当時と比較したら相当静かであると思う。他方、滑走路と平行する中里地区や江川地区、久津間地区では、特にホバリング訓練時の騒音が酷いと聞いているので、ホバリング訓練は可能な限り海側で実施することはできないか。自衛隊の必要性は重々承知しているので、ぜひよろしくお願ひしたい。

- これまで基地周辺の住民を対象とした住民説明会においても、現状の駐屯地の運用により発生する騒音問題が多く寄せられた。検討事項の一つとして、住宅に近い場所で行うホバリング訓練を制限することが考えられる。他方、これにより、騒音が全くなくなる、ということはないが、騒音の軽減策は今後も検討していく。

- 西側の場周経路下に生まれてからこれまでずっと生活をしているが、頭上をCH-47が飛行することは日常茶飯事であり、そもそも賛否を問われても賛成も反対もない。生活をしている以上、いつ墜落事故が起きても仕方がない、そのような気持ちで生活をしている。このことから、場周経路下に居住している住民の考えが一番重要視されるべきである。基地周辺住民を対象とした住民説明会の中においても、ほとんどの住民が反対意見を述べていない。仮に反対をするのであれば、0か100、つまり自衛隊に出て行っただけ、という考えになるが、今の生活が変わらないのであれば、反対も何もないよ、という意見も出ている。防衛省の助成により防音工事を実施していただいたが、オスプレイが飛来した際も、防音工事した部屋に移動するだけで、騒音は一切気にならなかった。防音工事さえやっていただければ、騒音問題は解決するものと考えている。

- 常日頃からCH-47の騒音に苦慮されていることは重々承知している。その上で、様々な施策を講じているところであるが、仮に陸自オスプレイが暫定配備された後、どのような騒音問題が発生するかについては、木更津市と相談をし、適切に対応する。

- 駐屯地周辺の江川地区では、５分から１０分間隔で会話をするのも困難なほどの騒音が発生する。平均１５回／日の離発着階数が増加する見込みであるとのことだが、具体的に駐屯地周辺住民に対して、オスプレイが実際に飛行した際、どのような騒音が発生するのか、それを確認する準備をしているのか。また、騒音の軽減施策について、具体的にどのようなことが想定されるのか。騒音回数が増えることは確実である。
- 現在よりも騒音の発生回数が増加することは確かであるが、騒音レベルはあくまでデータ上の数値であり、実際に配備された後、どのような影響があるのかは、断定的にお答えは困難である。いずれにしても、仮に陸自オスプレイが暫定配備された後、どのような騒音被害や障害を与えるのかについては、木更津市と相談した上で、適切に対応していく。

【訓練内容】

- 現在、日本において一番事故率が高いのは防災ヘリコプターで、これは訓練不足によるものが原因であると承知している。自衛隊においては、十分な訓練を実施していただき、事故を発生させないよう、願います。
- オスプレイの訓練飛行時間は何時から何時までか。
- 木更津駐屯地の運用時間は、通常、平日の８時３０分から１７時までとなっていることから、この時間帯での飛行運用が基本であるが、他方、陸自のパイロットには夜間飛行訓練も義務付けているため、１７時以降の飛行訓練を行うことがある。

【飛行経路】

- 反対意見ではなく、事実関係の確認であるが、南西諸島に向けて飛行する場合は、鹿野山方面から飛来し、また、鹿野山方面へ向けて飛行することになるのか。
- 現在、ＣＨ－４７と同様の飛行経路になることを想定しているが、悪天候時等においては、パイロットの判断で安全に飛行できる経路を飛行することとなる。その際、住宅地や学校等、騒音に関し、住民の方に負担をかけないように努める。
- 悪天候時の飛行経路であるが、目視での飛行ができない状態であるので、大変危険であると思われる。悪天候時の飛行経路に袖ヶ浦市も含まれているが、袖ヶ浦市は劣化ウランが屋外に保管され、また、危険な工業地帯が沢山あり、このような場所に墜落した場合、住民が危険である。そのような場所で訓練や飛行をしていただきたくない。（木更津市外の住民）
- 悪天候時の飛行経路は計器飛行を行うことになるが、この際は、国土交通省が定めた経路を飛行することになる。国土交通省は航空路誌で飛行経路を

定めているが、悪天候時に安全に飛行できる高度や経路となっている。

- 沖縄を視察した際、オスプレイはかなりの重低音で飛行しており、気分が悪くなった。自衛隊や米軍の航空機が低空飛行をすることから、民間機は高高度の飛行を余儀なくされている。私は今の答えを理解したくない。(木更津市外の住民)
- 有視界飛行と比較すると計器飛行が難しい飛行であることは間違いない。平素において計器飛行による飛行は想定しづらいが、一方、例えば、離島での緊急患者空輸等において、目的地の天気が良いが木更津が悪いということがあった場合、それをもって飛行しないということではなく、任務に対応するため、計器飛行方式により飛行していくことは想定される。

6. その他

【災害派遣】

- オスプレイの暫定配備に賛成の立場であるが、災害派遣や急患輸送の際、一度にどの程度の人数を輸送することが可能であるのか。
- オスプレイはまだ導入していないため、正確な数を申し上げることは困難。その上で申し上げれば、患者の症状にもよるが、当然、重篤患者の輸送を行う場合は、一度に輸送できる人数は少なくなる。他方、大型輸送機であることから、一般的なヘリコプターに比べ、搭乗可能人数は当然に増えるものと考えている。

【木更津市以外の自治体への説明】

- 現状、CH-47が飛行する際、朝晩限らず、窓ガラスが振動する。説明資料によると、木更津駐屯地に現在配備しているCH-47と同程度の騒音になるとのこと。現在の訓練場所を調べたところ、北海道にまで及ぶとのことで、これが、今度は南西諸島となれば、木更津市のみの問題ではなくなる。富津市においては、場外離着陸場が2箇所指定されており、また、千葉県南部は超低空飛行エリアに指定されている。木更津市のみの説明だけでは済まされない。他の自治体へも説明をし、仮にどこかの市町村で反対の声が上がった場合は、暫定配備を中止していただきたい。(木更津市外の住民)
- 陸自オスプレイの導入は、我が国全体の安全保障の観点から決定したものであり、佐賀空港のインフラが整っていない中、木更津駐屯地への暫定配備をお願いしているところである。当然、オスプレイの運用が始まれば、訓練は木更津駐屯地周辺で行われ、また、演習場等に飛来して訓練を実施することになる。我が国全体の利益の観点から、陸自オスプレイの導入を決定したものであることから、飛来する全ての自治体の理解を得てから配備することは現実的には困難である。したがって、防衛省としては、木更津駐屯地が所在している木更津市にまずは御理解を頂きたいと考えている。他の市町村に

おける説明会の実施については、千葉県とも相談しながら検討する。

【国防】

- 住民説明会の開催に感謝するが、反対意見は聞くだけは聞くが、暫定配備することは決定事項である、そういった判断はしないでいただきたい。会場の雰囲気として、オスプレイを歓迎する、という意見は少ないものと感じる。
- 防衛省としては、住民説明会の機会を通じ、我々の考えを説明させていただき、少しでも理解を頂いた上で、最終的に木更津市及び木更津市議会の判断になるものと考えている。今後、改めて木更津市からオスプレイの暫定配備に関する質問書が送付されるものと承知しており、これに丁寧に答えさせていただいた上で、判断をしていただくことになるが、我々とすれば、木更津駐屯地に陸自オスプレイを暫定配備させていただきたい立場であることは、御理解願う。